

学期	月	単元・章	時数	観点別評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	・鉛筆で描く 鉛筆の種類や使い方 形の捉え方、立体感や質感の表し方 の基本	1	知：材料の性質を理解している。	思：思い出の風景に、自分の感じたことをどう重ねてあらわすかを考えて主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	態表：鉛筆などの単色による表現方法に関心を持つ。
	5	・表現 「木のデッサン」 校内の木のデッサン	4	技：鉛筆の材料や用具を生かし、制作の順序を考え、見直しをもって工夫してあらわしている。	思：思い出の風景に、自分の感じたことをどう重ねてあらわすかを考えて主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	態表：主体的に思い出の風景に、自分の感じたことを重ねてあらわす表現の学習活動に取り組もうとしている。
	6	・鑑賞 「風景に思いを重ねて」 様々な風景画の鑑賞	1	知：形や色、光などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、風景に重ねた思いを全体のイメージで捉えることを理解している。	鑑：風景を描いた作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者がどのような思いを重ねて描いたのかを考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態鑑：作者の表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
2	7	・表現 「風景画制作」 アイデアスケッチ 下描き 透視図法 一点透視図法と二点透視図法 ・人権ピンバッチのデザイン 〔夏季休業中の課題〕	5	技：透視図法による遠近感の表現方法を理解している。 技：表したい人権について理解し、わかりやすい形で簡潔に表現している。	思：効果的にメッセージを伝える工夫などを考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 思：伝えたい内容から発想を広げ、わかりやすい形で美しく表現している。	態表：視覚を通して伝えることの楽しさに関心を持ち、構成や表現の工夫を考える。
	9	・表現 「風景画制作」 着色 絵の具の種類について	6	技：制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって創造的にあらわしている。	鑑：日本や西洋の美術作品について、それぞれのよさや美しさを感じ取り、日本の美術が西洋に与えた影響について考えるなどして、美術文化への見方や感じ方を深めている。	態表：主体的に思い出の風景に、自分の感じたことを重ねてあらわす表現の学習活動に取り組もうとしている。
	10	・鑑賞 「北斎からゴッホへ」 海を越えた文化の交流	1	技：自分のあらわしたい心情に合った表現方法を追及して創造的にあらわしている。	思：自分をあらわす印象的なデザインを、わかりやすさと美しさの調和など総合的に考え、表現している。	態表：絵の具による多様な表現方法に関心を持ち、表現したいことがよく伝わる表現の工夫を考える。
3	11	・表現 「ロゴタイプ」 アイデアスケッチ 下描き 着色	5	知：日本の美術が西洋の美術に与えた影響や、日本や西洋の美術文化を全体のイメージで捉えることを理解している。	思：自分をあらわす印象的なデザインを、わかりやすさと美しさの調和など総合的に考え、表現している。	態鑑：主体的に日本の美術が西洋の美術に与えた影響について考え、よさや美しさを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	12	・表現 「ロゴタイプ」 アイデアスケッチ 下描き 着色	2	知：形や色などが感情にもたらす効果や造形的な特徴をもとに、伝わりやすく、わかりやすいデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。	鑑：情報をわかりやすく伝えるデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、情報をわかりやすく伝えるための工夫などを考えるなどして見方や感じ方を深めている。	態表：視覚を通して伝えることの楽しさに関心を持ち、構成や表現の工夫を考える。
	1	・鑑賞 「仏像について」 海を越えた文化交流 彫刻について	1	知：文化交流の歴史や仏像の種類について理解している。	鑑：仏像のグループや手の形などさまざまな特徴を学習し、見方や感じ方を深めている。	態鑑：仏像の表現の違いや工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
3	2	・表現 「想像の生物をつくる」 アイデアスケッチ 塑像 着色 作品鑑賞	1	知：塑像と彫像の技法の違いを理解している。	思：実際の生物や身の回りのものから想像を広げることで主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え表現している。	態表：主体的に実際の生物や身の回りのものから発想を広げ、想像の生物をつくる表現の学習活動に取り組もうとしている。
	3	・表現 「想像の生物をつくる」 アイデアスケッチ 塑像 着色 作品鑑賞	8	技：粘土の材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追及して創造的にあらわしている。 知：形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、想像の生物に託した願いや思いを全体のイメージで捉えることを理解している。	鑑：想像から生まれたさまざまな作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、どんなところに表現のおもしろさを感じるか考えるなどして、見方や感じ方を深めている。	態鑑：主体的に作者の表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
<p>評価方法 <b>[300%(3観点の合計)÷3=100%]</b></p>				<p><b>知 (100%)</b></p>	<p><b>思 (100%)</b></p>	<p><b>主 (100%)</b></p>
<p>定期考査 (30%程度)</p> <p>授業内の活動 (70%程度)</p> <p>ワークシート アイデアスケッチ 作品</p>				<p>定期考査 (30%程度)</p> <p>授業内の活動 (70%程度)</p> <p>ワークシート アイデアスケッチ 作品</p>	<p>授業内の活動 (100%)</p> <p>ワークシート 作品</p>	